

# 書あり 師あり 友ありて



## ～ 残暑の中、WBGT (暑さ指数) 測定で思うこと ～

学校長 平田 高之

猛暑が続く熱中症が心配される中ですが、8月31日からグラウンドを使って体育大会の練習をスタートさせました。9月1日の1・2年合同練習を除き、練習は午前中に固めています。それでも、グラウンドの日差しは厳しく、帽子着用、水分補給、1時間単位の練習日程等工夫はしていますが、今後も熱中症に気を付けながら取組を進めてまいります。

そんな中、以前ホームページでお知らせしましたが、校長室前には「熱中症対策コーナー」を設けています。中崎小学校長の取組を参考に、本校養護教諭に作成してもらったWBGTの数値を速報する掲示板を設置しています。

ここに数値が出てきます(WBGT 以外に気温・湿度等も測定できます)



校長室前熱中症対策コーナー



WBGT 速報掲示板

マイクみたいですが  
測定器です(日陰で測定します)

WBGT が「31℃」を超え「危険」と予測された時があり、すでに運動部活動を二度休止にしましたから、部活動があるかどうか気にしている生徒たちがよく見に来ますが、その際の反応は2通りあります。校長室前なのでよく聞こえるのですが

「このままなら部活動ができるわ」という嬉しそうな声。そんな時は、校長室から出て声をかけると「今日はやりたい事があるので良かったです。週末に練習試合があるので安心しました。」等という前向きな返答があります。「このままなら部活動あるやん」「早く帰ってゆっくりしたかったのに」という残念そうな声も聞こえてきます。体育大会の練習に体育の授業もある中、7校時まで授業を受けた後の部活動ですからしんどい時もあるでしょうから、「ノー部活デー」をうまく活用してほしいと思います。

一方、顧問からは、「今日の予測では15時から31℃を超えてるから運動部活動は難しいかも」という話題になると、「新人大会に向けて何とか練習をしたいので下がってくれないか」という声ばかりです。

この暑さから、8月は完全下校時間を18時に繰り上げましたが、WBGT がたとえ低くても、寝不足、水分不足や体調が悪い時には、熱中症になる危険性があります。生徒たちの意欲も大切にしながらも、命に係わることですので、くれぐれも安全に気を付けながら教育活動を進めてまいります。

## = いろいろな方のお力をお借りし「チーム大蔵」で頑張ります =

4月当初にご紹介しましたが、本校には教職員以外に多くの専門職を配置してもらっています。

具体的には、「SC(スクールカウンセラー)」、「SSW(スクールソーシャルワーカー)」、「生徒指導相談員」、「特別支援教育指導員」、「図書館司書」「ALT」の皆さんですが、それぞれが専門性を活かし、教員と連携しながら生徒たちの支援をして頂いています。

2学期からは、さらに、特別支援学級の生徒を支援する「特別支援教育サポーター」、学校の消毒や様々な事務をサポートしてくれる「スクールサポートスタッフ」、3年生の英語の授業の一部で学習をサポートしてくれる「学習支援員」が新たに加わりました。また、兵庫教育大学大学院の教育実践演習として、大学院生が昨年度に引き続き、この9月以降6週間、学校のサポートをしてくれます。(教育実習とは異なるものです。)さらに、3学期にも、別の兵庫教育大学院生が4週間来る予定です。

その他、6月から行っていましたが3年生を対象にした「OHKURA 学習クラブ」の「学習ボランティア」として来て頂いていた方々には、9月からの「数学・英語応援団」にも引き続き来て頂きます。

美術科の代替教員として、3年生にはベテランの津村先生。さらに1・2年生には、薦本先生の後には山田先生に来て頂き、生徒たちの指導に当たってもらっています。なお、薦本先生ですが、神戸芸術工科大学大学院卒業後、美術の非常勤講師をしながらプロの芸術家を目指しておられます。一度、「薦本大樹」で検索して頂きますと、過去の作品や受賞状況、マスコミで取り上げられた記事等が出てきます。できれば、文化発表会で特別展示をしてもらえないか話をしているところです。

今後も、さまざまな方のお力をお借りしながら、生徒たちにとってより良い教育環境が提供できるように努めてまいります。

## 33年目にして初優勝!

## ライオンズカップと優勝旗が本校に!!!

すでにホームページで速報させて頂きましたが、本校サッカー部が「第33回ライオンズカップ シニアの部」で、33年目にして、ついに初優勝を飾り、大蔵中学校部活動に新たな歴史を刻んでくれました。

特に、今回嬉しかったのは、優勝という結果はもちろん、3年生最後の「明石市種目別大会」前にけがをしたために出場できなかったチームメイトと、何とかもう一度一緒にサッカーができるよう県大会進出を目指していたことです。苦しい試合が続いても、お互い声をかけ、足を攣りながらも全力疾走して戦い抜きました。特に、決勝戦では、技術体力とも上回る種目別大会優勝の望海中学校を相手に、防戦一方ながら、キーパーを中心に守り切り PK 戦まで持ち込みました。しかし、大蔵中1人目が外し再び苦しい展開の中でも仲間を信じ、望海中5人目が外しサドンデスとなり、6対5で勝利を収めました。

本校優勝と同時に感動したのは、最後のPKを外しうなだれる仲間のもとに、ダッシュで駆け寄る望海中生の姿でした。3年間一緒に練習してきた仲間との絆に、他生校ではありますが、本当に素晴らしい中学生だと思わせてもらえました。

結果だけでなく、このような仲間との絆が、部活動を通して得られる宝物であり、大切にしてもらいたいと願っています。

